

令和4年度南部地区道徳教育研究協議会の概要

令和4年度は、第1日は参集型で行い、第2日はオンライン会議を行いました。概要と、指導者による指導内容の概要を掲載させていただきます。

【第1日 研究協議題】

『特別の教科 道徳』の趣旨を踏まえ、『考え、議論する道徳』の授業を充実させるために、どのような工夫改善を図ることができるか。また、「指導と評価」、効果的なICTの活用を行うに当たって、どのような工夫ができるか。

○ 日 程

10月19日（水）蕨市立塚越小学校・第二中学校にて授業公開をもとにした研究授業

○ 部 会

小学校…「自我関与」「問題解決A」「体験的A」の3部会

中学校…「問題解決B」、「体験的B」の2部会

- ・【自我関与部会】
「読み物教材の登場人物への自我関与が中心の学習」を学習活動の中心に据えた授業。
- ・【問題解決部会A・B】
「問題解決的な学習」を学習活動の中心に据えた授業。小学校はA、中学校はB。
- ・【体験的部会A・B】
「道徳的行為に関する体験的な学習」を学習の中心に据えた授業。小学校はA、中学校はB。

○ 授業の概要

部会名	クラス	内容項目	教材名・出典
自我関与	1年1組	A 節度、節制	大すきなタブレットタイム 「未来に生きる」埼玉県教育委員会
問題解決A	6年3組	C 公正、公平、社会主義	未来を見つめるまなざし 「未来に生きる」埼玉県教育委員会
体験的A	3年1組	C 規則の尊重	よろこびはだれに 「未来に生きる」埼玉県教育委員会
問題解決B	2年1組	A 向上心、個性の尊重	男らしさ女らしさ 自分らしさ 「未来に生きる」埼玉県教育委員会
体験的B	1年3組	B 友情、信頼	最後の思い出 「未来に生きる」埼玉県教育委員会

- ・導入や話し合いの際、タブレット端末でアンケートを行い、問題意識の喚起や意見の可視化に活用していた。中学校では、個々の考えを、全体に共有することで、話し合いを深める工夫を行っていた。
- ・「自我関与部会」では、自分への影響を考えさせるように、発問を工夫していた。
- ・「体験的部会」では、役割演技を取り入れ、道徳的行為の良さや難しさを、児童生徒に考えさせていた。
- ・「問題解決部会」では、適切な学習課題を設定し、ねらいに迫る手立てとしていた。

《指導のポイント（抜粋）》

【道徳科の目標について】

- ・ 目標…①道徳的諸価値の理解、②自己を見つめる、③多面的・多角的に考える、
④自己の生き方について考える、⑤判断力、心情、実践意欲と態度を育てる
(学習指導要領解説 P 1 6)
- ・ 児童の発達段階を理解し、道徳性を養う。(小学校学習指導要領解説 P 2 6 に一覧表)

【道徳の授業づくりについて】

- ・ 手順
 - ①学習指導要領により「ねらいや、指導内容」について教師が捉える。
 - ②これまでの学習状況や、児童の実態を把握する。
 - ③教材の特質や、活用方法について考える。
- ・ ねらいと主題の設定…明確な指導の意図をもとに、授業を組み立てる。
- ・ 自分の考えと、友達の考えを比べて「なるほど」となるのが道徳である。
- ・ 道徳は、道徳的行為を求めるものではなく、心の中に埋め込んでおく種である。

【深い学びについて】

- ・ 深い学びにするためには、各学年で考えさせるところをおさえておく。
- ・ クラスの実態に応じて「発問」を工夫すること。
- ・ 発問について…発問①価値理解：よりよく生きる上で大切なこと。
発問②人間理解：人間の弱さ
発問③他者理解：考え方は多様であること。
- ・ 子どもの本音にせまる工夫が必要である。あらすじを問う発問や、心情理解に偏った発問ではなく、子供たちの心を揺さぶる多様な発問を工夫していく。
- ・ 子どもの意見や考えを、いかに友達や教師とキャッチボールさせるかが大切である。

【ICTの活用について】

- ・ ICTの活用（発達段階に合わせた）
 - ①導入：問題意識をもつ
 - ②展開：自分との関わり、多面的・多角的に考える、自己の生き方
 - ③終末：道徳的価値についての実現への意識を高める。
振り返りに活用（録画など）

※効果的であるかどうか考えることが大切である。

【その他】

- ・ 問題解決的な学習で最も大切なのは、「何を問題とするか」である。
(実態→教材→問題設定→十分な話し合い→自己を見つめる ※変容があったかどうか。)
- ・ ペアトークは参画意識を高めるのに、効果的である。
- ・ 役割演技は、客観的に演技を見ている子供たちがどう思ったかが大切である。
- ・ 子どもの状況で、授業の内容が変わることは問題ない。
- ・ 多様性が大事である。(その人のバックグラウンドを知る、先入観を持たない、当たり前を疑う、色々な人がいることを知る。)
- ・ 授業者が、課題の答えを考えておくことも大切である。
- ・ 教師の話しは、思いが伝わるような内容がよい。
- ・ 道徳は、1時間ごとに評価するのではなく、ポートフォリオ化して評価する。

【研究協議題:第2日】

『特別の教科 道徳』を含む新学習指導要領の趣旨を踏まえ、自校の道徳教育の一層の充実を図るため、道徳教育推進教師を中心とした指導体制をどのように確立するか。家庭や地域との連携を図るために、全体計画、別葉をどのように活用するか。ICTの活用を、全体計画や別葉にどのように位置づけるか。

○ 日 程

11月16日(水) オンライン会議

○ 内 容

- ・道徳教育推進モデル校 実践発表(和光市立第五小学校・朝霞市立朝霞第五中学校)
- ・義務教育指導課からの情報提供
- ・講義「道徳教育推進教師の役割と道徳教育推進体制の確立」
講師 県立総合教育センター 小久保 理恵 指導主事
- ・グループ協議(小学校部会16グループ、中学校部会8グループ)

《講義のポイント(抜粋)》

【教育活動全体で行う道徳教育】

- ・各教科等の授業で、学級経営で、学校行事で、給食、清掃、朝・帰りの会などで、規律ある態度・生活目標など、あらゆる場面で子供たちの心を育てる。

【重点目標の明確化】

- ・どのような子どもを育てたいのか、目標に向かってどのような内容を重点的に指導するのかを明らかにする。
- ・意図的な指導であることが大切である。

【道徳科におけるICTの活用】

- ・(例) ①導入で問題意識を持たせるための活用(アンケート結果など)
②話し合いの場面での活用(思考ツール、ポジショニングなど)
③自己を見つめる場面での活用(ノートの写真を撮るなど)

【道徳教育推進教師の役割】

- ① 指導計画の作成(全体計画、別葉、年間指導計画)
- ② 全教育活動における道徳教育の推進、充実(学校行事、体験活動、各教科等とのつながり)
- ③ 道徳科の充実と指導体制に関すること(研修計画、授業の進め方モデル)
- ④ 道徳用教材の整備、充実、活用(場面絵、ワークシート等の整理、ねらいと発問を残す)
- ⑤ 道徳教育の情報提供や情報交換(道徳通信、サイトの紹介)
- ⑥ 家庭・地域社会との連携(授業公開、ゲストティーチャー、学校HP)
- ⑦ 道徳教育の研修の充実(理論研修、校内授業研究、文部科学省や総合教育センターの資料の活用)
- ⑧ 道徳教育における評価(教師の改善・充実、児童生徒が自らの成長を実感)

【道徳教育推進教師がもちたい機能的役割】

- ① プロモーター(推進者)としての気概をもつ。
- ② コーディネーター(調整役)に徹する。
- ③ アドバイザー(助言者)の役割を果たす。